



2025年横浜港

ビッグニュース

横浜市港湾局

国際競争力強化への取組

5月 サイバー攻撃に備え、「横浜港情報セキュリティ連絡会」を立ち上げ

国土交通省が策定した安全ガイドラインに基づき、サイバー攻撃発生時に関係者が連携し、港湾機能の維持・早期回復ができるよう横浜港情報セキュリティ連絡会を立ち上げ、10月には情報伝達訓練を実施しました。

7・11月 国内外で、横浜港をアピール

海外では、インドネシア(ジャカルタ)で、国内では、宮城県仙台市において、船会社、物流事業者、荷主企業等を対象としたセミナーを開催し、横浜港の利用促進を図りました。



10月 2025年上半期のコンテナ取扱個数が好調

2025年上半期(1～6月)のコンテナ取扱個数は前年同期比2.0%増の153万個と好調で、直近10年間で最大となりました。特に、内貿コンテナ取扱個数が増加し、前年同期比13%増の18万個となっています。



9月 本牧ふ頭D5コンテナターミナルの一部供用開始

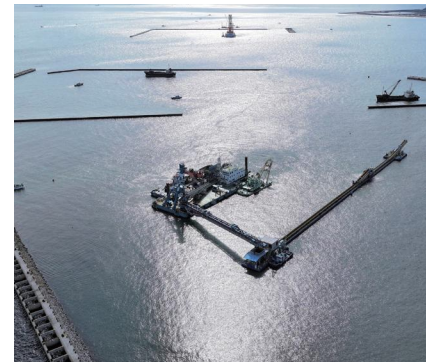
超大型コンテナ船に対応した最新鋭のコンテナターミナルとして再整備を進めているD5ターミナル。岸壁の改良やヤードの拡張工事が進み、一部のエリアで供用を開始しました。今後も整備を進め、早期の完成を目指します。



写真提供：国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所

1～12月 進む新本牧ふ頭埋立工事

9月末時点で第1期地区の埋立容量約900万m³のうち、約400万m³の土砂投入が完了し、10月からは、ベルトコンベア式に土砂を投入できるリクレーマー船を導入するなど、新本牧ふ頭の埋立が着実に進んでいます。



観光と賑わいの港

7月 「飛鳥Ⅲ」就航

横浜船籍の新造船「飛鳥Ⅲ」が横浜港からデビューしました。花火やコスモック21の特別演出などのイベントも行い、デビューセレモニーには3,000人を超えるお見送り客がださん橋に集まりました。



9月 汽車道が第20回「日本夜景遺産」に認定

汽車道が、地域の歴史的資産を活かした景観づくりと、夜間観光資源としての魅力が高く評価され、「日本夜景遺産」の新規認定地として認定を受けました。



8・9月 「戦後80年・船齢95年 帆船日本丸の航跡」

2025年は戦後80年・帆船日本丸船齢95年という節目の年です。8月から横浜みなと博物館で戦時中の航海日誌の公開を開始したほか、9月には市庁舎の展示スペースで帆船日本丸がこれまで歩んできた歴史を展示し、多くの人々に海や船の魅力をお伝えしました。



10月 みなとみらい21地区最大の緑地「臨港パーク」内に「横浜ティンバーワフ」がオープン

水際線や港の景色を楽しむことができる新施設がオープンしました。1階のベーカリーカフェは連日賑わっています。2、3階の野外レクリエーション支援施設及びレストランは年明け以降に順次供用開始予定です。



12月 世界に誇れる水際線へと磨き上げるためのプランの素案を公表しました

臨港パークから山下公園までの約5kmの水際線において、居心地が良く歩きたくなる歩行者空間の創出や緑地などの公共空間を活用した賑わいづくりなどを一体的に行い、魅力を高めるまちづくりの方向性等をまとめたコンセプトプランの素案を公表しました。



1～12月 クルーズ船寄港数が過去最多見込み

2025年の横浜港のクルーズ船の寄港数は200回を超える予定で、2019年の188回を上回り過去最多を更新する見込みです。14隻のクルーズ船が初入港するなど、多様な船の寄港により港の賑わいが創出されました。

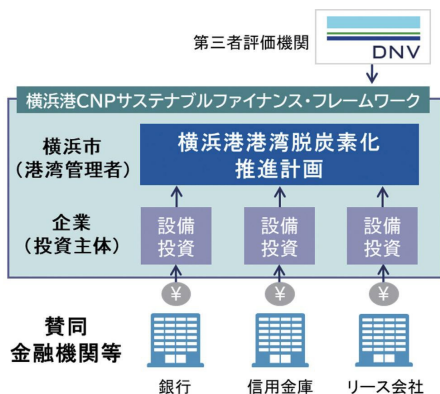
カーボンニュートラルポートの形成

3月 「横浜港港湾脱炭素化推進計画」の公表

2050年の脱炭素社会の実現を目指し、官民の連携による脱炭素化の促進に資する港湾の効果的な利用の推進を図るため、「横浜港港湾脱炭素化推進計画」を公表しました。港湾脱炭素化促進事業として、民間企業等の120を超える事業を盛り込んでいます。

3月～ 横浜港CNPサステナブルファイナンス・フレームワークの取組

民間企業等が、『横浜港港湾脱炭素化推進計画』に位置付けた取組の資金調達時にサステナブルファイナンスへのアクセスを容易にすることで、脱炭素の取組を金融面から後押しします。多くの金融機関が参画し、電動タグボートの建造や建物の省エネ化・再エネ導入における融資契約が締結され、本取組の活用が着実に進んでいます。



10月～ これからのデータセンター (DC) 事業に向けた取組

再生可能エネルギー 100%で稼働する洋上DCの世界初実証を日本郵船株式会社等と連携し、ださん橋ふ頭のミニフロートで開始します。その他、臨港地区でのDC建設に向け、地区への配慮や地域共生、電力低炭素化・脱炭素化について、株式会社JERAと協力し検討を進めます。



10月 日本初！横浜港が「サステナビリティ・アワード2025」最優秀賞を獲得

世界の港湾が競う国際港湾協会(IAPH)主催の「サステナビリティ・アワード2025」で、横浜市が気候変動とエネルギー部門の最優秀賞を受賞。日本の港としては初の快挙で、官民の連携によるカーボンニュートラルの港づくりが世界から高く評価されました。



山下ふ頭の再開発

6～9月 「答申を踏まえた基本的な方向性」の取りまとめ及び市民意見募集の実施

山下ふ頭再開発検討委員会から提出された答申を踏まえ、再開発のテーマと具体的な取組の考え方を「基本的な方向性」として取りまとめました。また、これに対し市民意見募集を行い、2,610件のご意見をいただきました。

9～12月 市民検討会開催及びサウンディング調査実施

幅広い世代の市民の皆様から対面で直接意見を伺う、本市初の無作為抽出を活用した市民参加型の検討会(全5回)を開催しています。また、民間事業者の皆様が持つ知見等について幅広く伺うサウンディング調査を実施しています。

